

第 2 回 倉 渕 地 域 審 議 会

総合計画前期実施計画事業に係る質疑

事業名	No.	質 疑	回 答
小栗の里整備事業	1	<p>小栗の里の完成が当初計画より1年遅れとなっている。その原因は何か。</p> <p>また、小栗の里の拠点施設が、当初と違って公民館施設の一部に変わっているという印象を受けた。それはなぜか。</p>	<p>年度別計画策定後に、施設整備場所が支所に決定となり、まず24年度に支所改修を行い、公民館等の機能を支所内へ移転した後、25年度に拠点施設整備を行うため、遅れが生じている。</p> <p>当初から支所へ移転できない部屋は、拠点施設に設置し、現在の公民館利用団体の方も使用し、さらに拠点施設の運営上の利用も考えており、管理主体が替わっても利用形態は変わらないと考えている。</p>
	2	<p>建設懇話会の3年間の検討結果を尊重してほしい。指定管理者となった時は、オール倉渕の体制で行いたいと考える。</p>	<p>建物がまるで市街地に建てるような建設構想だったので、二度ほど再検討を指示した。</p> <p>倉渕特有の料理や生産物を使った個性のあるものにしたい。倉渕の方で、業者が良いのか、倉渕の女性達が連携したグループを作って、受けていただけるのかは、これから検討してくださいと言った。このことについては最終的に詰めているところで、ご意見を伺うことになる。</p> <p>倉渕の生産物で、倉渕の食事を出して、倉渕に行くと、ああいう所がある、という施設にするにはどういう方法があるのかという点で議論していただきたいと思う。もう少し時間を頂きたい。</p>
	3	<p>例えば、生活改善グループでお弁当を作るとか、地元産の米で、おにぎりを作るとか、また、うどん、おきりこみ等もあるので、それらをメインでやる予定で、地元の飲食店組合やワーキンググループで話し合ってきた。</p> <p>その辺りが伝わっていなかったと思う。また検討したい</p>	<p>はんでえ米を出すと思っていた。そのようにしないと客は来ない。倉渕の特色がないような、例えばスパゲッティ等は出さないで欲しいと思う。</p>

	4	<p>小栗の里整備事業の効果について伺いたい。この施設を造ることによって、どの程度雇用が増加するか、また、地域全体に対してどのような効果を望んでいるかをお聞きしたい。</p>	<p>物販・食堂といった面で雇用が必要になる。</p> <p>この事業は、拠点施設の整備に向けては、基本方針に基づいて進めているわけで、一つには地域の歴史や文化、自然環境を生かした学習の場としての施設整備、一つには地域の安全安心な農産物、農林産物、特産品などを提供できる施設、緑豊かな田舎での地域の伝統的な食の良さを伝え地元の味を楽しめる施設、一つには市民をはじめ都市住民との交流の場、地域に誘導するための情報発信基地、あるいは、市全体の観光案内所の機能を有した施設と考えられる事業である。</p> <p>基本的には、地域の活性化を図ることが最大の目的で、市民や観光客の憩いの場であり、あるいは楽しむ場として、地域の情報発信の要素をもった拠点施設として捉えている。総合的には地域の活性化に結びつく施設、過疎地域の活性化に結び付けられるような施設として考えている。</p>
	5	<p>施設の明確なコンセプトがあるのか。</p>	<p>憩いのある場所として、あるいは倉渕全体をPRできる施設を造るという考えで進めている。</p>

その他の質疑

内容区分	No.	質 疑	回 答
倉渚地域の空き家対策について	1	<p>倉渚地域は空き家が増えている。庭草が伸び、放置され、害虫や火災等の心配がある。市は、空き家について、管理等の全般的な対策を考えているのか。</p>	<p>平成23年度から空き家の総合相談窓口は総務部防災安全課で担当している。</p> <p>放置され老朽化した適切に管理がされていない空き家については、現地調査を行い、所有者に対して建築物が適正な状態に維持・管理するように関係部局から依頼を行っている。</p> <p>しかし、空き家の実態については、利用状況や経過年数が個々に異なり、財産権の問題や相続手続きが完了しておらず相続人を特定できないなど、対応が難しいケースも発生している。</p> <p>空き家に関する相談が寄せられた場合、防災、防犯、防火、環境面に課題を抱えている場合が多く、今後も関係部局と密に情報交換を行いながら対応する。</p>
防災対策について	1	<p>倉渚地域では、今まで JA の有線放送で、地域内へ災害等の情報を伝えていたが、有線放送が廃止となった。現在のところ、倉渚地域の全世帯に伝える手段がないと思われるが、今後、市はどのような方法で地域内に災害等の情報を周知しようと考えているのか。</p> <p>また、災害に備えた非常用物資の備蓄状況はどのようになっているのか。</p>	<p>災害時の情報伝達方法は、各町村防災行政無線の運用を引き継いでおり、箕郷、新町、榛名、吉井の各地域は、野外のスピーカー又は個別の受信機による伝達方法により災害情報などを提供している。</p> <p>防災行政無線以外の情報伝達手段は、携帯電話の安心ほっとメールやラジオ高崎による情報提供を行っている。</p> <p>各地域の防災行政無線は、老朽化が激しいことや、現在のアナログからデジタルへの対応など、合併により広域化した市域全体へ整備には、多額の経費が必要であり、全市的な整備のあり方については、なお十分な検討が必要と考えている。</p> <p>先進事例のひとつとして、既に整備された光ケーブルのネットワークを利用し、これに必要な送受信設備や屋外スピーカーを追加することで、防災行政無線と同じように使用することが出来るシステムが、経費や工期の面で一定のメリットがあるとされている。こういった手法を含め、より経済的な情報伝達の手法について、現在、研究を進めている。</p> <p>非常用物資の備蓄状況については、高崎地域5箇所及び各支所にて備蓄している。</p> <p>(次項へ続く)</p>

			<p>(前項の続き)</p> <p>全市の備蓄状況は、カンパンやアルファ米、飲料水などを中心として現在、約 93,000 食を備蓄している。備蓄数は高崎市地域防災計画に基づいて、想定被災者数を基本として算出している。充足率については、昨年の災害対応等もあり、約 75%であるので、速やかな充足と入れ替えに努める。</p> <p>また、倉渕地域での備蓄食料の状況は約 2,130 食分備蓄されており、約 153%の充足率となっている。これら備蓄食料については、賞味期限の近づいたものから毎年度、順次入れ替えを行っている。さらに物資においても毛布をはじめとして、携帯用トイレや紙おむつ、発電機、投光器なども備えている。</p>
	2	安心ほっとメールについては、年配で携帯電話の使い方がわからない方も多いため、そういった方々にも有効な方法を検討して欲しい。	<p>高崎市全世帯に高崎の水道は安全ですという周知方法は現在のところない。時間をかけて広報等で周知するのは異なり、1日のうちに全世帯に伝えるという方法はない。</p> <p>最終的には、人から人への口伝えと言う方法が確実で、温かみがあるが、隣の家が遠い倉渕になると、それをこなすとなると大変だと思う。</p> <p>今年度、地域ごとの研究・実験を進めるため、7地域で区長さんの了解を得て試験を行う予定である。</p>
美洲カントリー倶楽部跡地の活用について	1	美洲カントリー倶楽部跡地を、昆虫の森や墓地にするという話を聞いたことがある。高崎市でこれからの利用計画があるのか。	<p>当地は、平成4年9月に民間会社により総区域面積104ヘクタールで18ホールのゴルフ場造成が始まったが、平成6年3月に経営悪化により造成工事が中断した。</p> <p>平成7年2月に債権者により競売の申し立てが行われ、平成14年11月19日に、当時の倉渕村が倉渕ダム建設により減少した村有林の代替地として競売で落札し、全体面積の75パーセントを取得した。</p> <p>その後、地権者との買い取り協議が進められ、現在、民有地は約1万3,000平方メートルほど存在している。</p> <p>利用計画に、委員質問のような昆虫の森や墓地といった具体的な計画はない。当地は面積約104ヘクタールといった広大な緑地である。自然林公園として整備を検討するとともに、多方面からの利用(次項へ続く)</p>

			<p>(前項の続き)</p> <p>も検討し、小栗の里やクラインガルデンなどの周辺施設との連携を図りながら、豊かな環境を活かした魅力ある公園整備を進めていきたい。</p>
ぐるりんバスの運行について	1	<p>合併当初、ぐるりんバスは、1時間程度で高崎駅まで直通で行くことができた。しかし、現在では、2回乗継ぎしなければ市内へ行けず、時間もかかるようになった。乗継ぎを間違え、遠回りして目的地に到着した話も聞いている。</p> <p>倉渕地域では過疎、高齢化が進んでおり、交通機関の充実が望まれる。以前のように、高崎駅まで直通が無理な理由は何か。また、既存のバス路線に補助金を出す等、ぐるりんの直通に対する代案を出してもらいたい。</p>	<p>合併当初は民間事業者に競合補助金を支払い、合意を得て、運行していたが、経費がかさみ利用度も伸びないことから平成22年度に変更した。</p> <p>また、現在は法改正により競合路線より安価な運賃での運行には地域公共交通会議での同意が必要だが、事業者等からの同意は得られない。</p> <p>行政による安価な運賃でのぐるりん運行は競合する民間路線の衰退、地域の交通体系・サービスの後退を招き、代替バスの運行となると行政経費の増加を招く。</p> <p>これから地域特性に合った持続可能な交通施策・体系を支所地域公共交通体系検討委員会で議論を重ね、検討していきたい。</p>
	2	<p>民間バス会社へ補助する等、何か策があるような気がするが、いかがか。</p>	<p>ぐるりんバスは業者に委託し、赤字分を委託料として補填している。</p> <p>直行便で行けた時期があったため、現在は直行便がないという点が問題となっているが、現状ではぐるりんの直行便は難しい。</p> <p>倉渕の高校生が旧市内の高校に通うために大変なバス費用がかかっている。また、中山間地の高齢者がバスの停留所まで出てくるのが大変という問題がある。</p> <p>通学時の交通費負担について支援を検討したい。</p> <p>高齢者に対し優遇している敬老バスカードがあるが、案外使われていない。拡充やPRを検討したい。</p> <p>中山間地の高齢者対策も、福祉タクシー券やデマンド交通などがあるが問題もある。いろいろ検討し、費用対効果も勘案して考えていきたい。</p>

倉渕地域の過疎、高齢化対策について	1	<p>倉渕地域は青壮年の流出によって、限界集落に近づいている。青壮年、移住者の受け入れ対策は、どのように考えているのか。</p> <p>多くの人が、倉渕を目指して来てくれる背景作りを早めに行わないと手遅れになると思う。そのためには、へき地を特別扱いしてもらい、税制面を優遇するなど、また、関心が集まる特区とする等、行政側も意識を変えて新しい戦略を行っていく必要があると考えている。</p>	<p>高崎市では、倉渕地域を自然共生ゾーンと位置付けている。その中で、定住対策の推進として、子育て世代やUターン・Iターン・Jターン者を対象とした住宅供給対策や、公共交通の充実、地域情報化の推進等を図ってきた。</p> <p>今後の将来像として、恵まれた自然環境や景観を保全しつつ、若者や子育て世代の定住や都市住民との交流を促進していきたいと考えている。</p> <p>なお、倉渕地域では、過疎地域自立促進計画や山村振興計画を策定し、各種事業を実施することで、生産機能や生活環境の整備などがされることにより、地域の自立の促進と振興を図っている。今後も、多方面で、人々の交流の増加を目指してまいりたい。</p>
	2	<p>例えば税制面で優遇する等具体的な方策を考えて欲しい。</p>	<p>全国皆同じ課題を抱えている。例えば特区には必然的理由、政策的理由がないといけない。</p> <p>高崎でも、よほど知恵を出しても難しいテーマがいくつかある。慎重に知恵を出していきたいと思う。</p>
太陽誘電跡地の利活用について	1	<p>太陽誘電三ノ倉工場跡地は、倉渕の過疎化等を象徴しているように感じる。この跡地について、出来れば要望として、跡地を市が購入し、建物を撤去して、地域で利活用することを検討できないか。</p>	<p>太陽誘電三ノ倉工場は、平成20年12月15日に製造ラインが停止された。</p> <p>小栗の里拠点施設の候補地として、当時、倉渕支所で会社に確認したところ、倉庫として使用していくと回答を頂いたので、市が購入し、活用することは現在のところ考えていない。</p>
			<p>買入れは至難であると考えている。</p> <p>常にアンテナを張り、移転や土地を売却するという情報を行政当局が手に入れたら速やかにアクションを取るが、相手先も見つからずにアクションを取るわけにはいかない。</p>